

## 授業改善シンポジウム「教職実践演習」に参加して

理科教育講座・日詰雅博

### 1. シンポジウムの概要と感想

東賢司先生よりシンポジウム開催の趣旨は教職課程における最終授業科目「教職実践演習」について理解を深めることであるとの説明の後、次の話題提供があった。

教職コーディネーターの池野先生は「教職実践演習の全体像」と題して、「教職に関する科目」の必修科目として新設されたもので、教職課程の学習を終えた4年次後学期に開講する授業科目である。目的は、教職課程の授業や課外でなどの様々な活動を通して、本学が養成する教員像や到達目標（愛媛大学教職課程 DP）に照らして、教員としての能力・資質の習得を確認するものであり、大学として養成した教員の資質能力を保証するものである。教職課程 DP は、教科・教職に関する幅広い知識と得意分野の専門知識、現代的課題に対する関心と問題解決力、児童生徒の発達に応じた授業力、実践と理論の往還による向上力、児童生徒だけでなく親や地域や同僚などとの対人関係力の習得である。DP の実現のために本学部では学生に教職課程学習ポートフォリオを作成させ、毎年次学習記録を確認し、向上した点や不足なところを自覚させている。カリキュラムに関しては、講義・実験が学生からどの DP に対応しているかを調査し、教員に還元することにより、授業改善を行っている。教職実践演習では、はじめに教職系教員が担当し、教育現場の講師などによる教育現場についての講話とグループ討論、最後に、教材研究と指導案づくり、模擬授業等による実践。これらにより、教職 DP に見合う能力を身に付けているかどうかを判断する。最後のは英語クラスの実例が紹介された。

教職実践センターの山崎先生より、「他大学の状況と教職実践演習の意義」と題して、本科目の趣旨とねらいの説明と授業内容の例が示された。他大学では初期には本来の教職実践特講の趣旨とは異なるが多かったが、最近はその意義を認識しながら多種多様な形態で実施されるようになってきている。本学では、リフレクシオンディの実施や到達

目標を教職課程の DP とし、各階の評価も DA について実施、補修学習や補充学習を行っていることが特徴である。特に、リフレクシオンディと補習学習について詳細に説明があった。最後に、本科目でのポートフォリオから見られる DP 達成度の自己評価、学生アンケートの結果などからカリキュラムを検討し改善を図ること。学生の活動の様子や課題への取り組みから教育方法や学生指導の改善を考えるとなどの問題はあつたことであつた。

学校教育の小田先生は「教職実践演習からみた学生の姿」と題して、教職経験の豊富な先生がこの科目で担当した授業と教育現場の現状を紹介した。授業の内容は心に響く言葉が大切であり、児童生徒に伝えるには言葉を発する教師力・人間力が大切である。何気ない一言が児童生徒を傷つけている場合があり、早く解決する必要がある。心に響く言葉には専門性・トレンド・人間の生き方や人生論などがあるので、日頃から準備しておく必要がある。残りの授業では、いじめ問題の整理と解説、いじめの起こりにくい学級づくりの視点、集団規範を崩させないポイントなど現場経験を講義していることであつた。さら、本学部の学校教育講座の教員や松山市教育委員会の指導主事、市内の校長先生などから調査した、現場で必要とされている教員が備えるべき資質能力について整理して講義しているとの紹介があり、最後に「どのような学生を育てていけばよいのか」との提案があり、興味深い話であつた。その中で、教職に就く覚悟と多様な体験・語る・聴くことの重要性が心に残つた。

### 2. 教職 DP を考慮した授業改善

今回のシンポジウムを聴いて、「教職実践特講」の意味と教育現場で必要とされている資質能力については、よく理解できた。自分が行っているの講義や実習の内容とやり方を教職 DP に照らしてみると、教科専門の科目が多いので偏りがあるのはやもうえないが、今後、少人数の講義では教職 DP を考慮した内容や方法を考えていきたい。